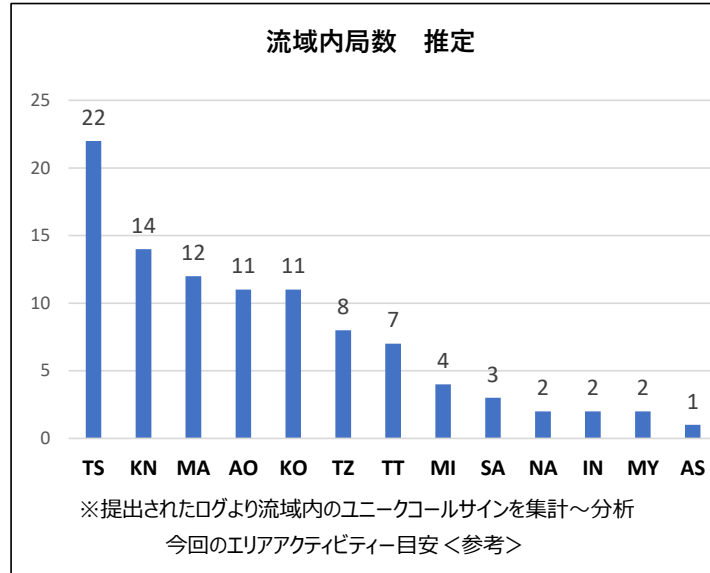


2019（令和元年） 第2回 鶴見川コンテスト 全体概況

1. 流域内アクティビティ分析

局数順	マルチ	N r	推定運用局	比率
1	横浜市鶴見区	TS	22	22.2 %
2	横浜市神奈川区	KN	14	14.1 %
3	東京都町田市	MA	12	12.1 %
4	横浜市青葉区	AO	11	11.1 %
5	横浜市港北区	KO	11	11.1 %
6	川崎市都筑区	TZ	8	8.1 %
7	川崎市高津区	TT	7	7.1 %
8	横浜市緑区	MI	4	4.0 %
9	川崎市幸区	SA	3	3.0 %
10	川崎市中原区	NA	2	2.0 %
11	東京都稲城市	IN	2	2.0 %
12	川崎市宮前区	MY	2	2.0 %
13	川崎市麻生区	AS	1	1.0 %

流域内総局数 推計 99局 ※提出ログより



提出ログより流域内のナンバーを送出した「ログ提出局に限らないコールサイン数」を重複なく（ユニークコール）集計分析したところ99局参加であった様子
後述の全体のユニークコールサイン数281から流域外からより多く参加されている。（35:65）流域外移動運用が多かった？横浜市外の流域局へのPR不足？

※交信局同士が両局ともログ非提出の場合もありえるため、あくまで参考ではあるが今後、流域北部エリアおよび川崎市内マルチエリアへの参加促進が課題？

全体 ログ提出局

流域内	RS	61	44.2 %
流域外	OS	77	55.8 %

計 138局 チェックログ3局含む

Q R P ログ提出局 = ログ提出全体の 26.1 %

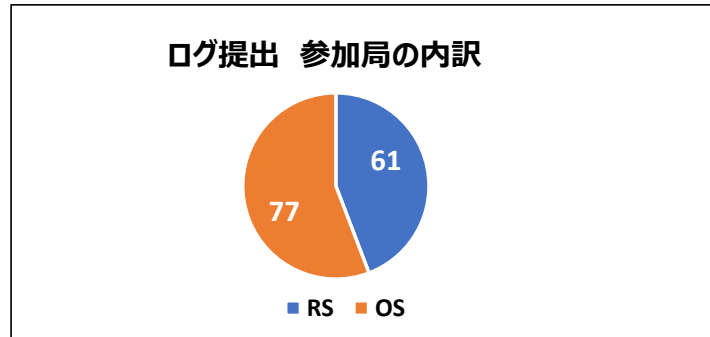
流域内 Q R P	RS	17	47.2 %
流域外 Q R P	OS	19	52.8 %

計 36局

Q R P部門の新設！Q R P部門のログ提出数は全体の26.1%となった

両部門とも流域外からの参加が過半数を超えている

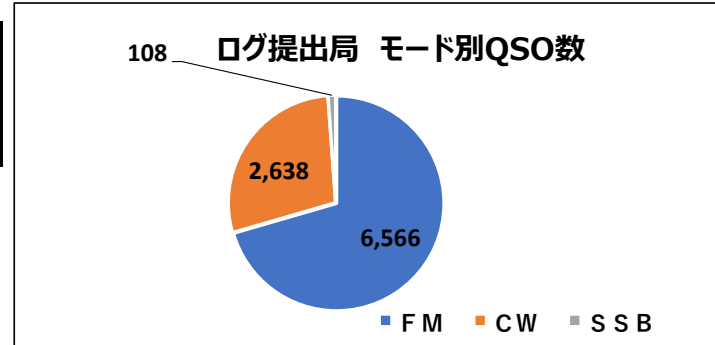
流域外局のログ非提出は多かったものの、QSO・伝播確認の機会は創出できた？！



2. モード別、時間帯別アクティビティ分析

モード別	QSO数	比率
F M	6,566	70.5%
C W	2,638	28.3%
S S B	108	1.2%
9,312		

昨年数	増減
5,344	+1,222
2,422	+216
153	-45
7,919	+1,393

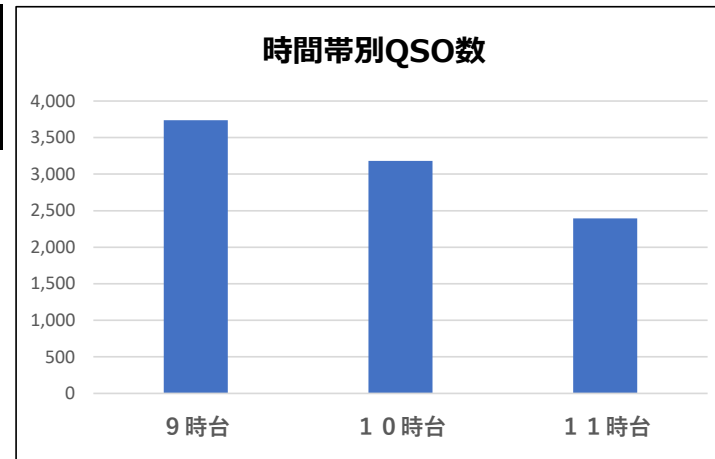


第1回の昨年と比べると全体で1,393QSOが増えている

時間帯別のモードごとのQSO数をみると
時間帯が変わってもモードの比率はあまり変わらなかった

時間帯別QSO数	比率
9時台	3,736 40.1%
10時台	3,181 34.2%
11時台	2,395 25.7%
9,312	

昨年数	増減
3,073	+663
2,479	+702
2,367	+28
7,919	+1,393



時間帯別モード割合	QSO数	比率
9時台	F M	2,597 69.5%
	C W	1,100 29.4%
	S S B	39 1.0%
10時台	F M	2,293 72.1%
	C W	833 26.2%
	S S B	55 1.7%
11時台	F M	1,676 70.0%
	C W	705 29.4%
	S S B	14 0.6%

参考

コンテスト参加局数	
ユニークコール数	281局
内 ログ提出局数	138局

ログ提出局数は全体の
49.1%

ログ提出方法内訳	
電子メール	134局
郵送手書きログ	4局

97.1%
2.9%

今回も多くの遠隔地からのご参加を頂きました	
JH0SPE	長野県小諸市
7N1PFW/1	茨城県土浦市
JA9BFA/1	茨城県龍ヶ崎市
JR1MEG/1	栃木県日光市
J11XSE/1	群馬県前橋市